

<b>学校教育目標</b>	○人との関わりを大切にします。(徳、公) 様々な活動、体験を通して周りの人への理解と協力の大切さを知り、集団へ貢献することの喜びを実感し、豊かな人間性を身につけられるよう支援します。					
	○生きるための学びを大切にします。(知、開) 学ぶ楽しさと創り出す喜びを実感しながら基礎・基本を習得し、それを活用して表現する能力を身につけられるよう支援します。					
	○心と命を大切にします。(徳、体) 自他の生命を尊重し、健やかな心とからだをもち、粘り強さと望ましい生活習慣を身につけられるよう支援します。					

<b>学校概要</b>	創立 35 周年	学校長	栗田智則	副校長	梅田研一	3 学期制	一般学級: 17	個別支援学級: 2
	児童生徒数: 611 人		主な関係校: 釜利谷小、釜利谷南小、高舟台小、六浦小					

<b>教育課程全体で育成を目指す資質・能力</b>	<b>釜利谷中ブロック</b>	<b>小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b>
<コミュニケーション能力>  <表現力> (自分の考えを伝える力を含む)  <生きる力>	釜利谷中 釜利谷小 釜利谷南小 高舟台小	人とのかかわりを大切にし、集団の中で、 お互い認め合い、高め合おうとする子ども  ○“人とのかかわり”“生きるための学び”“心と命”を大切に指導を、全校の教育活動で具現化するように相互の情報交換を充実させ、意図的な場面設定を図る。 ○生徒の実態を把握して、「育成を目指す資質・能力」、「重点的取組分野」等に関する共通理解の推進を図る。 ○小中連携をさらに推進させて、小中合同授業研究会の開催や児童生徒交流日の充実を図る。 ○地域連携をさらに推進させて、地域行事や地域防災拠点訓練への積極的参加を図る。

<b>中期取組目標</b>	<p>○釜利谷中学校の生徒・卒業生としての誇りがもてるように、諸活動を充実させて、生徒の自尊感情・自己有用感の醸成を図る。</p> <p>○挨拶運動を推進し、学校内にとどまらず地域でも挨拶ができるように、コミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>○教科横断的に育てたい資質・能力を明確にしなが、一人一人を大切に指導を充実させるとともに、分かりやすい授業の実践を目指す。</p> <p>○すべての教科領域で、言語・表現活動の充実に努め、さまざまな場面での表現力の育成を推進する。</p> <p>○保護者や地域との一層の連携・協働を図り、学校家庭地域全体で将来を担う人材を育成する。</p>
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
<b>生きてはたらく知</b>	①身に付けた知識や技能を使って思考力・判断力・表現力等を働かせながら、多面的・多角的な見方や考え方で問題を解決する力を育てる。 ②主体的・対話的で深い学びを意識した授業やICT教材を活用した授業実践を通して、的確に社会の動向を捉えるために、情報の中から必要なものを取捨選択する力や、学ぶことの意義や楽しさを感じながら意欲的に学び続ける力を育てる。 ③教科横断的指導の実践を通して、学びを人生や社会とつなげ、豊かな発想をもとに、知恵を働かせて生きる力を育てる。
<b>豊かな心</b>	①道徳教育の充実を教科横断的に図り、生徒一人ひとりを大切に、誰もが安心して心豊かに過ごせる学校づくりに努める。 ②いじめは絶対に許さないを合言葉に、いじめのない学校生活を全校で創り上げる雰囲気構築のために挨拶運動を充実させる。 ③自主・自律の精神を重視して集団としての規範意識を高めながら、自主的に考え判断して誠実に実行しようとする力を育てる。 ④「相互理解・寛容」「思いやり・感謝」「生命の尊さ」を重点に、全教育活動を通じて自尊感情・自己有用感の醸成を図る。
<b>健やかな体</b>	①保健委員会の生徒による、健康に関する啓発活動を実施し、健康・安全についての意識を高め、生きて働く力の充実を図る。 ②学校保健委員会を通して、歯と口の健康に対する意識の向上を図る。 ③昼休みのボールを使った外遊びや一校一実践運動のサーキットトレーニングを通して、体力の向上を図る。 ④昼食指導や食育を推進して、食を大切にしようとする意識向上を図る。
<b>生徒指導</b>	①生徒の心情をくみ、個に応じた温かみのある生徒指導に努めるとともに保護者の思いを汲み取り信頼関係を構築するように努める。 ②日常から生徒との時間の共有に努め、教職員と生徒との人間関係の構築に努める。 ③3年間生徒が安心して生活できるような指導力を教職員が身につけ、報告・連絡・相談を徹底して組織的な指導を行う。 ④いじめや不登校の早期発見・早期対応を図り、全職員で情報を共有し、指導・支援を行う。
<b>特別支援教育 人権教育</b>	①校内の特別支援教育委員会を中心に、配慮を要する生徒のアセスメントを丁寧に行い、共通理解のもと、その特性に応じた支援を行う。 ②特別支援教育についての校内研修会を開催し、具体的場面で支援の手立てや見通しが立てられるようにする。 ③講演会や映像資料、読み物資料等活用し、互いの立場や違いを理解して行動できる心を育む人権教育を展開する。
<b>コミュニケーション能力 言語・表現活動</b>	①学ぶことに興味や関心をもたせ、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見直しをもって取り組む学習活動を図る。 ②地域にかかわる意識を高めながら自己の考えを広げ深めるために生徒間の協働、教職員や地域との対話の場面設定を心がける。 ③伝える力(PREP、非言語要素)、受け取る力(相手の話にしっかりと耳を傾けること、バックラッキング)を身に付ける取組を図る。 ④アクティブラーニングを取り入れた授業改善を図り、生徒の「主体的で対話的な深い学び」を引き出す。
<b>キャリア教育</b>	①職業講話(1年)職業インタビューや職業体験学習(2年)修学旅行の事前事後学習(3年)をさらに充実させて労働観や職業観を育む指導を推進する。 ②福祉教育における人との出会いを通して他者の立場や心情を思いやり、互いの支え合う心や姿勢「ともに生きる力」の形成を図る。 ③積極的に進路情報の発信を行い、3年次には中学卒業後の進路先決定に向けての個に応じたきめ細やかな指導を行うことで、自らのキャリア形成について「自ら考え・選び・決定」する力の育成を図る。
<b>地域連携</b>	①地域コミュニティの中心地として学校の役割を果たしていくように、地域連携の場を充実させる。 ②地域祭礼や地域防災拠点訓練への参画等地域との連携・協働を生徒に促し、地域での活躍場面を作り自己有用感の醸成を図る。 ③教職員も地域行事へ積極的に参加し、地域の人たちと顔の見える関係を築き上げる。 ④おやじの会やPTAと連携し、季節に準じた行事に地域の人たちを呼び込むことで学校を身近に感じる場面作りをする。
<b>いじめへの対応</b>	①いじめ防止基本方針に準じ、いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめの早期発見(認知)早期対応を適切に行うとともに記録を作成・保管し、校長をリーダーとしたチーム支援を実践する。 ②教育相談や日常の学習活動及び学校生活の見取りを大切に、誰もが安心して生活できるように生徒の心情に寄り添う支援に努める。 ③保護者との連携を密にして協働するとともに、必要に応じて外部関係機関との連携を図る。
<b>人材育成・ 組織運営 (働き方改革)</b>	①各種職員研修会やメンターチーム研修の充実を図り、相互の授業参観に努め、授業力・指導力の向上を図る。 ②日々の教育活動における教育課題や問題点を共有し、相互理解を図るとともに、その対応策や解決方法を協議し実践する中で、教師力の向上を図る。 ③職員が教育公務員としての使命感と情熱をもち、不祥事防止に努める。 ④働き方改革の視点から、会議の設定方法や部活動を含めた業務の効率化・時間設定など多角的視点から検討して、有益かつ持続可能な教育活動の充実を図る。